

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させてい  
たきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 市川中学校・市川高等学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒272-0816  
千葉県市川市本北方2-38-1

E-mail : daihyo@ichigak-net.ed.jp

Website : http://www.ichigaku.ac.jp/

児童生徒数：男子 1440名 女子 861名 合計 2301名  
 児童・生徒の年齢 13歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( 理数教育 )

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

本年度はユネスコスクール加盟2年目を迎え実りの多い一年となった。

2014年11月岡山県で開催されるユネスコスクール世界大会に日本代表(関東地区・千葉県合同チーム)の一員として高校1年の生徒が選出された。2013年11月にはそのプレ大会として大阪府で開催された『UNESCO 2013年 アジア・太平洋地域高校生ESDフォーラム』に他の日本代表チームと共に参加した。

さらに『第4回 ユネスコスクール事業ESD国際交流プログラム』に高校1年の生徒が合格し、3月23日～29日の日程で欧州各国を訪問。3月27日にはユネスコパリ本部を表敬訪問する。

ただし学校全体のユネスコスクール活動は未だ手探りの部分も多く、他校との連携を深めながらESDの充実をはかりたい。

本校ESDのテーマは「国際理解教育」「理科教育」「環境教育」である。これを中心にこの1年間の活動を報告する。

**1** 国際理解教育について

(1) 海外研修 ～英語研修(「Debate」「Discussion」「Presentation」)。15日間。希望制。

- ① ケンブリッジ大学研修：中3・高1。8月。サイエンスセミナー。ドミトリー泊。
- ② オックスフォード大学研修：中3・高1。8月。英国史・英文学ゼミ。ドミトリー泊。
- ③ カナダ研修：中3。8月。BC州ナナイモ。異文化理解。体験型アクティビティ。ホームステイ。
- ④ ニュージーランド研修：高1。8月。異文化理解。体験型アクティビティ。ホームステイ。姉妹校。

(2) 中学3年シンガポール修学旅行(11/26～。4泊5日)

(3) SSH海外研修

- ① タイ国研修：7/18～22。タイ王国プリンセスチュラボンチョンブリ校。合同研究発表会。11月来日。

(4) 海外留学・公募研修

- ① 海外留学修了者：3名
- ② 日韓交流キャンプ：大阪大会参加1名。
- ③ 自治体公募研修：2名(中2。柏市派遣。豪州／高2。千葉市派遣。カナダ)

(5) 教員研修(各研修参加者は1名)

- ① 6/22～6/29。ACCU 中国政府日本教職員招聘プログラム 中国視察(北京市～蘭州市)。
- ② 8/4～11。ISA 主催 米国ランキングトップ大学視察(Stanford、Harvard、MIT他)。
- ③ 9/28～10/2。日本私学教育研究所主催 シンガポール視察。

(6) 海外交流

- ① 5/8～9 ウォートバーグ大学吹奏楽団受入れ。学内交流、ホームステイ。
- ② 11/15 ユネスコアジア文化センター主催 中国教員視察団受入れ。
- ③ 11/7～11 SSH タイ王国プリンセスチュラボンチョンブリ校生徒受入れ。ホームステイ。

(7) 留学生受け入れ

- ① 5/23～7/21 スペイン留学生1名(男子。中学3年生)

(8) 国内活動

- ① ユネスコスクール世界大会日本代表選出(関東地区千葉県合同チーム)1名(高1)『UNESCO 2013年 アジア・太平洋地域高校生ESDフォーラム』参加
- ② 『第4回 ユネスコスクール事業ESD国際交流プログラム』合格1名(高1)
- ③ 『国際ユース作文コンテスト(主催：五井平和財団、後援：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会)』優秀賞1名、入選1名、佳作1名、学校特別賞 受賞(中学)。

- ④『JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト』優秀賞 1 名(中 3)、地球ひろば所長賞 1 名(高 2)
- ⑤『第 5 回 日本児童海外体験プログラム』参加(中 2 学年)
- ⑥ その他
- (9) ホストファミリー・ネットワーク(留学生受け入れ準備家庭) 現在登録数: 46 家庭。
- (10) 土曜講座(校内講座。年間約 20 講座 開講。対象: 生徒、教職員、保護者)
  - ①『21 世紀の経営者～和～』大島 学氏(イオン(株)執行役・サービス事業最高経営責任者)
  - ②『From Global Business Genba』佐藤 勝彦氏(元フォードジャパン会長・多摩大学大学院客員教授)
  - ③『日本および世界経済の動向』武藤 敏郎氏(元財務相次官・大和総研理事長・開成学園理事長)
  - ④『企業の CSR(企業の社会的責任)～ユニクロの活動～』新田 幸弘(ファーストリテイリング 上席執行役)
- (11) 海外大学進学: 希望者 5 名。10/22 教職員勉強会。MOOC(Massive Open On-line Course)活用。

## 2 理科教育について～SSH指定 5 年目の本年度は以下の活動を行った

- (1) 市川サイエンス(高校 2 年生対象)
  - ① 基礎課題  
物理・化学・数学選択対象者に実施。その分野に特徴的な課題を課すことで、数値処理、グラフ作成、データ処理、観察手法、実験手法、モデル構築などを体験・学習した。
  - ② 課題研究  
各自の選んだ課題に取り組み研究活動をする。適宜教員や連携機関のアドバイスを得ることができるが、アドバイスは結果をまとめるための最小限にとどめ、生徒のレベルで自分が想定でき、自分で解決できる課題を選ばせた。
- (2) 外部連携
  - ① 高大連携  
千葉大・農工大・慶応大・千葉大環境フィールドセンター・東大・東工大・早稲田大・JAXA。高校 2 年理系生徒全員で実施。6 月に実施されることもあり、(1)で行われる課題研究に向けてのヒントを得、アドバイスをもらう機会ともした。また参加者が主に高校 2 年生に限定されるために、進路選択の参考にもなるよう、プログラムした。
  - ② 高産連携  
清水建設・花王・NIPPI・酒井総合特許事務所。市川サイエンス参加者対象に実施。企業との連携に取り組んだ。本年度は産業界でどのような取り組みが行われているのかを紹介する形で実施した。また特許に関する研修を行った。
- (3) 校外学習  
白神山地自然学習会・守谷海岸自然観察会・三浦半島自然観察会。自然観察を通じて、通常授業の内容を進化させる取り組みを行った。三浦半島自然観察会は高校 3 年生生物クラスの生徒を対象とした。
- (4) サイエンスダイアログ(英語による集中講義)  
市川サイエンス参加者対象に実施。科学に関する講義を英語のみを使用して実施することで科学英語に触れることを目的とした。本年度は 8 名の講師を招聘した。

### (5) CASE・中3 探究する理科

中学1年生にCASEプログラムのいくつかを導入した。中学3年生では中学校理科まとの意味を含めて探究学習の意味を含めたコンテスト形式の課題を3学期に行った。

### (6) 外部発表会参加

千葉大「理科研究発表会」、ノートルダム清心「集まれ！理系女子 第4回女子生徒による科学研究発表会」、スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会、物理学会ジュニアセッション、農芸科学学会、植物学会、科学クラブ発表会、千葉県課題研究発表会、千葉県課題研究交流会、MIMS 高校生による現象数理学発表会、JSEC 最終選考会(2グループ)ysfFIRST(横浜サイエンスフロンティア高校)、SKYSEF(静岡北)に参加した。

### (7) 小学生対象講座の実施

7月と3月に小学生各200名合計400名を対象にして実施した。

### (8) 海外校との研究交流

- ① 7月にタイ王国プリンセスチュラボンチョンブリ校へ本校生徒が訪問し、11月にはタイ王国プリンセスチュラボンチョンブリ校の生徒が本校を訪問した。双方で課題研究の発表をした。
- ② オランダ王国ホフスタッドリセウムの生徒とのスカイプ交流を行った。これまで行ってきた、NZ 自然観察会は学校行事として取り扱うことになった。

### (9) 探究的な授業の開発

本校独自の物理教科書の改訂版および、化学・生物実験書が完成した。物理は高校全学年、化学は高校1年、高校2年分の実験中心の授業が完成した。

### (10) 授業研究会の開催

これまで得られた成果を、授業研究会を開催することで全国の先生方と共有、好評をいただいた。国・社・数・理・英の5教科で実施。

### (11) 他校連携

- ① 横浜サイエンスフロンティア高校のコアSSH企画に連携校として協力した。小笠原研修、ysfFIRSTに参加した。
- ② 船橋高校のコアSSH企画に連携校として協力した。サイエンスフェア、探求型講座、課題研究交流会、課題研究発表会等、企画および会場校として協力。
- ③ 静岡北高校のコアSSH企画に連携校として協力した。SKYSEFに参加した。

### (12) 土曜講座

- ① 『宇宙からのメッセージ』山崎 直子氏(宇宙飛行士・東京大学工学部研究員)
- ② 『生物のもつインテリジェンスを探ろう』三村 昌泰氏(明治大学先端数理科学科教授 先端数理科学インスティテュート・所長)
- ③ 『放射線を知ろう』中西 友子氏(東大農学生命科学研究科教授)
- ④ 『大学で初めて学ぶ、脳科学』石浦 章一氏(東京大学大学院総合文化研究科・教授)
- ⑤ 『エネルギーがインターネットになるってどういうこと?』江崎 浩氏(東大情報理工学系研究科教授)
- ⑥ 『理論物理学の最前線』大栗 博司氏  
(東大数物連携宇宙研究機構主任研究員、カリフォルニア工科大学フレッドカブリ冠教授)

## 3 環境教育について

### (1) 生徒会主催エコキャップ運動

- ① 本年度の回収日：7月18日(回収は年間2回程度)
- ② 回収個数：41, 581個(96.7kg)
- ③ 回収方法  
1) 回収箱設置 全教室、校内設置自動販売機脇、教員室 2) 生徒・教職員自宅回収

### (2) 校外学習

- ① 大町自然観察会(中1) ② 守谷海岸自然観察会(中1) ③ 三浦半島自然観察会(高3)
- ④ 白神山地自然学習会(中3～)

### (3) 土曜講座

- ①『考えてみよう、エネルギー問題』澤 昭裕氏(経団連 21 世紀政策研究所・国際環境経済研究所所長)
- ②『放射線を知ろう』中西 友子氏(東大農学生命科学研究科教授)

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他(ESD テーマ毎に適切に活動した)